

TOPICS 1

光合成研究で 世界に誇る成果

沈建仁教授が朝日賞受賞



朝日賞を受賞し記念の銅像を掲げる沈教授 (写真提供 朝日新聞社)

岡山大学大学院自然科学研究科(理)の沈建仁教授が、「光合成における水分解・酸素発生分子機構の解明」という功績を挙げたことが高く評価され、2012年度朝日賞に選ばれた。

朝日賞は公益財団法人朝日新聞文化財団が1929年に創設。学術・芸術などの分野で傑出した業績を挙げ、わが国の文化、社会の発展、向上に多大な貢献をされた個人または団体に贈られており、過去の受賞者には後にノーベル賞や文化勲章の受賞者も多く輩出している。

沈教授は長年にわたり光合成タンパク質の構造解析の研究を続けており、2011年には日本が世界に誇る大型放射光施設Spring-8を利用し、光合成において光エネルギーを利用して酸素を発生させる反応機構を解明。この研究成果は世界に大きな衝撃を与え、アメリカの国際科学雑誌Scienceのその年に得られた画期的な10の科学成果「Breakthrough of the Year 2011」にも選出される快挙を成し遂げた。



▲受賞記念スピーチを行う沈教授

1月31日に東京都内で行われた贈呈式には、ともに朝日賞を受賞した共同研究者の神谷信夫・大阪市立大学教授も出席。沈教授らは木村伊量・朝日新聞社代表取締役社長から目録と記念の銅像を贈られた。受賞記念スピーチを行った沈教授はこれまでの研究の苦労や面白さ、家族や周囲の人たちの支えに感謝を述べ、さらなる研究の推進を図りたいと今後の意気込みを語った。また贈呈式後の祝賀会では、お祝いに駆けつけた森田潔学長、許南浩企画・総務担当理事、山本進一研究担当理事らとともに受賞の喜びを分かち合った。



祝賀会に駆けつけた森田学長(左から2人目)らとともに(写真提供 朝日新聞社)

新理事紹介

北尾善信理事の辞任に伴い、2013年1月1日付で、門岡裕一氏(前文化庁文化芸術文化課文化活動振興室長)が財務・施設担当理事、事務局長に就任した。



門岡 裕一
KADOOKA Hirokazu

だれもが岡山大学で学びたい、岡山大学で働きたいと思えるような、キャンパスや職場の環境整備を進めたい。そのために、『美しい学都・岡山大学』というビジョンを踏まえた教職員・学生が一体感を持って取り組む行動計画やキャンペーン企画が必要。具体的に見える提案をしながら、共通理解と合意形成に努めたい。

かどおか ひろかず
九州大学職員、文部科学省大臣官房総務課課長補佐、文科省研究振興局振興企画課学術企画室長などを歴任。熊本県出身。

財務・施設担当理事 事務局長 The Message from Executive Director

千葉大学、新潟大学、金沢大学、長崎大学、熊本大学及び岡山大学の国立六大学は3月6日、六大学の特色を生かした連携を通じて教育・学術研究を機能強化し、グローバル人材育成推進や学術研究の高度化を図るため、包括的連携協定を締結した。このような広域にまたがる複数大学での連携協定は国立大学初となる。

岡山大学の森田学長が協定の趣旨を説明し、同大の荒木勝社会貢献・国際担当理事が国際連携機構の趣旨説明も行った。

また調印式に先がけて、ミャンマーのコー・コー・ウー科学技術大臣との懇談・意見交換も行われ、科学技術分野における六大学とミャンマーとの協力強化について確認書が交わされた。ミャンマーとの交流は、長崎大学を中心に工学系高等教育の人材育成支援について検討が行われてきたもので、今後六大学の国際化とグローバル人材育成をさらに推進していくことを確認した。

▲協定書に調印し握手を交わす森田学長(右から3人目)ら六大学学長



▲協定書に調印し握手を交わす森田学長(右から3人目)ら六大学学長

授業改善へ議論白熱

学生FDサミット開催

TOPICS 3



▲授業改善について議論する学生たち

岡山大学学生・教職員教育改善専門委員会は3月5、6日の2日間、大学教育の改善について学生目線で学び、考え、行動する「学生FDサミット2013春」を同大津島地区で開催した。全国40大学から学生や教員ら約300人が集まり、よりよい大学教育の形を求めて熱い議論を交わした。

FDとはファカルティー・ディベロップメントの略。教育力を高めるため、文科省によって大学のFDは義務化されており、全国の大学で授業評価アンケートなどが実施されている。同大では2001年度から学生をFDに参画させており、

全国でも先進的なモデル大学として知られている。

今回のサミットテーマは「考動せよ!学生FD」。初日は「岡山白熱教室」と題し、参加者全員で議論を展開。「授業をしない教員を認めるか」「大学教員に免許は必要か」「授業の出席点や宿題は必要か」などの議論テーマを設定し、それぞれの立場から白熱した意見を戦わせた。2日目は小グループに分かれて「しゃべり場」を開催。「学生FDとして何をすべきか、何ができるか」について話し合い、最終的に具体的な行動計画まで立案した。



▲協定書に調印し握手を交わす森田学長(右から3人目)ら六大学学長

国立六大学の連携強化へ 包括協定を締結